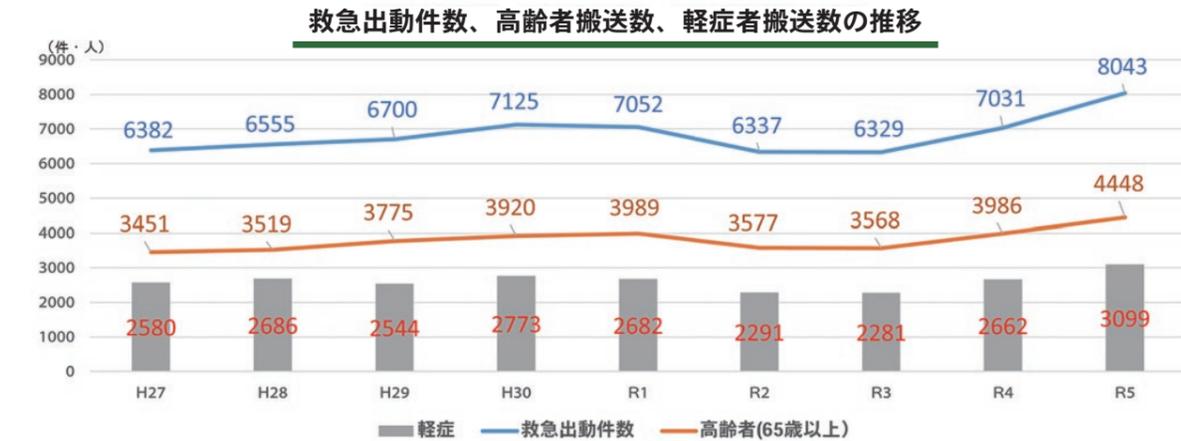


令和5年速報値 『救急車の出動が急増しました!』

令和5年中の市消防本部の救急出動件数は、過去最多となる**8043件**（速報値）を記録し、これまで最多だった平成30年の7125件から918件急増しました。

この状況により、**救急隊の数が逼迫する事態も発生しています。**

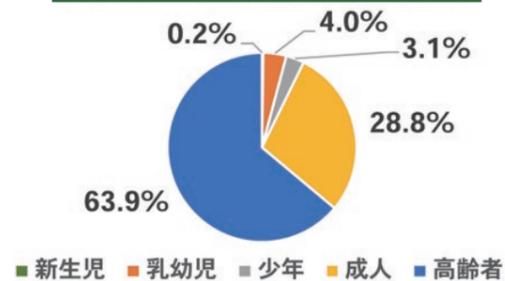
旧岩舟町と合併後の平成27年から令和5年までの救急車の出動内容から、増加した要因を考察したところ、熱中症等の増加、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによる国民の行動の変容、高齢者世帯の増加を背景とした救急需要の増大が挙げられます。また、救急搬送された方のうち初診時の診断では入院を要さない軽症と判断された割合が44.5%でした。



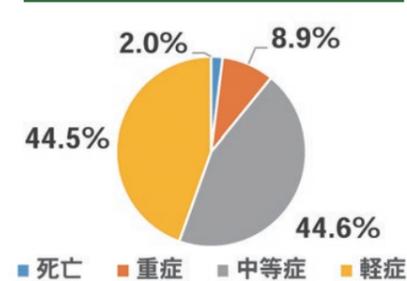
令和5年 月別出動件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件	707	592	579	560	587	646	803	796	699	653	650	771	8043

令和5年 年齢区分別搬送構成比



令和5年 傷病程度の構成比



救急車適正利用のお願い

市消防本部では通常7隊の救急隊を運用しており、活動時間短縮のために消防隊が協力するなどして対応しています。救急要請を受けると対応可能な最も近い救急車が出動していますが、救急要請が重複した場合、遠くの救急車が出動することになるため、到着まで時間が掛かってしまいます。持病をお持ちの方などは症状が悪化する前に早めの受診にご協力していただくなど、**本当に必要としている人のために救急車の適正利用をお願いします。**



ただし、躊躇しないで!

急に意識を失った、胸が苦しくなった、呼吸が苦しくなったなどの緊急を要する場合は、**迷わず救急要請してください。**

☎ 警防課 (23) 0070

見直してみませんか? 家庭での地震対策



1月1日に発生した能登半島地震では、広範囲に渡って大きな被害が発生し、多くの方が亡くなりました。日本列島は、世界的にみても地震が起きやすい場所、いっどこで起きるかわかりません。ご家庭での地震対策について、ぜひもう一度確認してみましょう。

☎ 危機管理課 (21) 2551

Step2 家の中や家屋の対策

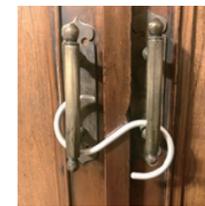
タンスや食器棚が、倒れたり中身が飛び出さないよう対策していますか?地震の際は、家具の下敷きになったり、倒れた家具が入口を塞いでしまったり、食器などが床に散乱し危険な状態になることも。地震発生の際、少しでも家の中が安全になるよう、転倒防止用品などを使って対策をしましょう。



家具を直接固定するL字型金具。壁に取り付ける場合は、下地に柱がある場所へ。



穴が開けられない、固定する柱がない家具は、転倒防止用の突っ張り棒を使う方法も。



観音開きの食器棚の場合、S字フックも有効に使えることも。揺れに反応して自動でロックする器具もあります。

耐震診断を受けてみませんか?

栃木市では、昭和56(1981)年5月以前の耐震基準で建てられた木造住宅の耐震化を支援するため、耐震診断士の無料派遣をはじめ、耐震改修・耐震建替え工事費の一部補助を行っています。

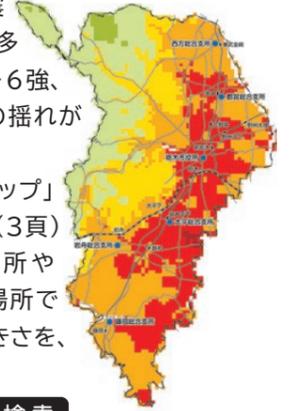
☎ 栃木市 耐震診断 検索
耐震診断等について詳しくは
☎ 建築指導課 (21) 2441



Step1 地震のリスクを確認

もし大きな地震が起きた場合、今住んでいる場所が最大でどれくらい揺れる恐れがあるか、ご存じですか?栃木市直下型地震が起きた場合、市内の多くの地域では震度6弱~6強、一部の地域では震度7の揺れが想定されています。

「栃木市防災ハザードマップ」の『揺れやすさマップ』(3頁)を見て、お住まいの場所や職場・学校などのある場所で想定されている揺れの大きさを、確認しておきましょう。



☎ 栃木市 ハザードマップ 検索

Step3 非常時用の備蓄品をチェック

地震のように広範囲に被害が及ぶ災害では、被災する方の人数も多く、また、水道・電気・通信などの生活基盤や、交通網が大きく被害を受けることがあります。そのため、災害発生から混乱が収まるまでの「非常時用備蓄品」の準備が、より重要になります。普段から必要としているものは、最低でも3日分、できれば1週間分を備蓄しておきましょう。

地震の時に特に用意が必要なもの



水 地震災害では、水道が長期にわたって断水することがあります。特に、飲料水は、一人1日3リットルを目安に準備しておく安心です。ポリタンクや貯水袋など、水を貯められる容器も便利です。



トイレ 断水に加え、下水が破損することで、トイレが使えなくなることも。トイレ問題は、健康被害や災害関連死にもつながります。排便袋と凝固剤がセットになった「携帯トイレ」が便利です。一人1日6回分を目安に。



食料 普段食べているものを多めにストックしておくだけでも、立派な備蓄になります(ローリングストック)。また、災害時は栄養が炭水化物に偏りがち。魚介や肉類の缶詰は、長期保存ができて、手軽にタンパク質をとることができます。

※ほかにどんなものを備蓄したら良いか、そのほか災害に対する備えについては、「栃木市防災ハザードマップ」や「広報とちぎ8月号」をぜひご覧ください。